

第5回 仁淀川シンポジウム  
やってみよう!  
～仁淀ブルーを後世に

レポート



◆日時・会場

日時：平成28年2月21日(日) 午後1時から午後4時15分

会場：日高村社会福祉センター 参加者数：100名

◆主催団体等

主催：仁淀川清流保全推進協議会、高知県 共催：仁淀川流域交流会議

協賛：アサヒビール株式会社

◆テーマ「やってみよう! ～仁淀ブルーを後世に」

流域で清流保全活動に取り組まれる方々の交流の場として始まった「仁淀川シンポジウム」は、今回で第5回となりました。今年度は、昨年実施したワークショップを更に深めることを目指し皆様と意見交換を行いました。

## はじめに

「仁淀川シンポジウム」は、流域で清流保全活動に取り組まれる方々の交流の場として平成23年度から始まり、5回目の今回は「やってみよう! ～仁淀ブルーを後世に」と題し、平成28年2月21日(日)に開催しました。

第1部では、高知食糧株式会社の実施している高知県清流保全パートナーズ事業について、日高村立能津小学校の5・6年生からは学校での取り組みをご紹介いただきました。また、事務局から仁淀川流域での取り組み紹介を行いました。

第2部では昨年実施したワークショップについて、更に掘り下げることがを目的に「やってみよう」をキーワードに自分たちに何ができるのかを話し合いました。

このたび、シンポジウムにご参加いただけなかった方にも内容をお伝えするべく、概要をまとめた報告書を作成しましたので、皆様の今後の活動の一助となりましたら幸いです。

会場となりました日高村及び流域の市町村、関係者の皆様には多大なご支援を頂きましたことをこの場を借りて御礼申し上げます。

平成28年3月吉日

仁淀川清流保全推進協議会(事務局:高知県環境共生課)

## プログラム

- ① 開会あいさつ ..... 仁淀川清流保全推進協議会 石川 妙子 会長  
..... 仁淀川流域交流会議 戸梶 眞幸 会長

## ② 第1部「活動紹介」

- ❖ 「仁淀川流域での活動紹介」 ..... 仁淀川清流保全推進協議会 事務局  
❖ 「美しい高知の川を未来へ」 ..... 高知食糧株式会社 山崎 大輔 取締役営業本部長  
❖ 「ぼくたちわたしたちの仁淀川体験」 ..... 日高村立能津小学校5・6年生

## ③ 第2部「ワークショップ」

### ❖ 子どもたちを川へ呼び戻す

NPO法人環境の杜こうち 兼松 方彦 理事長  
によど自然素材等活用研究会 井上 光夫 代表  
公益財団法人四万十川財団 神田 修 事務局長  
国土交通省四国地方整備局 高知河川国道事務所 北川 誠純 調査課長

### ❖ 美しい環境・景観を保全する

NPO法人環境の杜こうち 石川 貴洋 事務局長  
NPO法人仁淀川お宝探偵団 生野 宜宏 理事長  
仁淀川リバーキーパー 石川 妙子 氏  
国土交通省四国地方整備局 高知河川国道事務所 渡辺 雄二 仁淀川出張所長

## ④ ワークショップまとめ

- ⑤ 閉会あいさつ ..... 仁淀川清流保全推進協議会 井上 光夫 副会長

# 第1部「活動紹介」

## ❖ 「仁淀川流域での活動紹介」 ❖

仁淀川清流保全推進協議会 事務局

高知県では、協働の川事業パートナーズ協定を「アサヒビール株式会社」、「高知食糧株式会社」、「有限会社高知アイス」の3社と締結しています。「アサヒビール株式会社」では、仁淀川の清流保全を支援する「元気な四国へ!さとあいプロジェクト」と、仁淀川流域の特産品を使った「高知家パック」の販売による高知家の応援を行っています。「仁淀川流域交流会議」では、「アサヒビール株式会社」からの寄付金を活用して植樹活動、間伐事業、「仁淀川清流保全推進協議会」への助成事業を行っています。

「仁淀川清流保全推進協議会」では、平成27年10月24日に流域をあげて総勢311名で仁淀川一斉清掃を実施しました。参加者には、流域の「サニーマート株式会社」の3店舗(サニーマート伊野店、サニーアクシスイの店、サニーマート高岡店)から寄付いただいた水切り袋を配ることで、ご家庭から清流保全活動に取り組んでいただいております。また、「能津小学校」での環境学習の他、「高知県立青少年の家」と連携した親子体験教室を実施しました。

高知県では、環境研究センターと連携して、越知小学校と越知中学校で環境学習を実施しました。また、「仁淀川流域交流会議」では、親子ふれあいバスツアーや仁淀川の森と水を考えるシンポジウムなど「仁淀川漁業協同組合」と連携した取り組みも実施しています。

それ以外にも、流域では様々な団体がイベントを実施しており、ニッポンイチ体感ツアーやTOYOTA AQUA SOCIAL FESなどが開催されています。

### 協働の川づくり事業 ～協定事例～

アサヒビール株式会社	高知食糧株式会社	有限会社高知アイス
 <p>スーパードライ1本につき1円が清流保全などに活用されます。</p> <p>高知県 仁淀川の清流保全活動に!</p>	 <p>高知県 × 高知食糧 高知県清流保全 パートナーズ協定</p> <p>※要領が購入された無洗米“まんま炊つき”の1kg当たり1円が高知県内の清流保全活動に充当されます。</p>	 <p>高知アイス売店におけるソフトクリーム1本につき1円を子どもたちの環境学習のために寄付</p>
 <p>アサヒスーパードライ対象商品1本につき1円を仁淀川流域の清流保全に寄付</p>	 <p>販売した無洗米“まんま炊つき”1kgにつき1円を県下の清流保全活動団体に寄付</p>	 <p>高知アイス売店におけるソフトクリーム1本につき1円を子どもたちの環境学習のために寄付</p>
平成20年～	平成23年～	平成28年～

# ❖「美しい高知の川を未来へ」❖

高知食糧株式会社 山崎 大輔 取締役営業本部長

「高知食糧株式会社」は、お米や卵の卸売りを柱としてペットショップや食堂・物販・産直複合店の経営、ちより街テラスでのカフェレストラン経営など幅広く事業を展開しています。

高知県とは高知県清流保全パートナーズ協定を結んでおり、高知県の美しい川を未来へ残していくために無洗米「まんま炊つきー」1kgあたり1円を積み立て、清流保全団体に役立てていただいています。協定締結の2012年から現在までに1000万円ほど寄付しており、県内の様々な河川で清流保全活動に活用いただいています。

「まんま炊つきー」は、洗わず炊くことができ大きく分けて4つのメリットがあります。1つ目は、おいしさです。お米の表面のヌカをとっているため、とぎ不足で、肌ヌカを残してしまいおいしさを損なうことがありません。また、洗いすぎて肌ヌカの下うまみ層をとることもありません。2つ目は、簡単便利ということです。お米と水を量って炊飯器に入れるだけ。忙しい時でも大丈夫ですし、子どもに手伝ってもらっておいしく炊くことができます。3つ目は、エコノミーということです。洗わず炊けるので水と時間の節約につながります。4つ目は、環境に優しいエコロジー商品ということです。とぎ汁に含まれるリンや窒素を流すことがないので、川や海を汚しません。リンや窒素は下水処理をしても完全には取り除かれないので、赤潮やヘドロの要因となってしまいます。この点「まんま炊つきー」は、工場内でもとぎ汁を一切出しませんので川を汚さないという特徴があります。しかも、工場を取り除いた肌ヌカは天然の有機質資材でもあり、野菜や果物の肥料や家畜の飼料に有効活用されています。

## 美しい高知の川を未来へ。



### 高知食糧株式会社

#### ■所在地

高知県高知市朝倉南町9番12号

#### ■事業内容

お米・たまご等食糧品全般の卸売  
ペットショップの経営  
食堂・物販・産直複合店の経営  
カフェレストランの経営



# ❖「ぼくたちわたしたちの仁淀川体験」❖

日高村立能津小学校5・6年生

「能津小学校」の仁淀川での体験を発表してほしいとお話があったので、自分たちが仁淀川に関係したどんな体験をしたのか話し合いました。そしてこれからの仁淀川を思うこととして、仁淀川にどうあってほしいか、仁淀川でどんなことをしたいかをまとめました。

今年度は、5月と9月に水生生物調査を行いました。見たこともない生き物が採れ、よく見ると石についたコケには魚の食べた跡がありました。小さな生き物も顕微鏡で見ると大きな目がみえて楽しかったです。じっくり探すことで、今まで川原に行っても気づかなかった生き物がたくさんいてびっくりしました。このたくさんの生き物が、鳥や魚の餌になり、仁淀川の生き物の豊富さにつながっているということも教えていただきました。

アユの放流は、エコサイクル高知の方々や漁協の方々のお世話になって毎年実施しています。一匹一匹に名前を付けて今年も多数放流しました。大きくなって戻ってくるのが待ち遠しいです。今年は、エビ採りにも挑戦してみました。難しいところは先生たちに手伝ってもらい仕掛けを作りました。仕掛け方を覚えると毎日川に行くのが楽しみになり、いつも様子を観察しました。採ったエビは、学校で調理して皆で食べて仁淀川の恵みをわけていただきました。

川原に遠足に行った時には水切りをしました。たくさん跳ねるととても楽しく、みんなでたくさん投げて遊びました。屋形船に乗せてもらった時には、山と空の美しさ、川底の石がはっきり見えたことを覚えています。

でも、楽しい思い出ばかりではありません。溺れそうになったこともあります。一度増水すると仁淀川は人の命を簡単に奪ってしまうほどで、自然の力を改めて知らされます。このため、夏には水泳をしたり、水に浮かぶ訓練をしたり、川の流れに逆らわず流れにのる訓練を行いました。なにより子ども同士では泳ぎに行かないと決めています。大好きな仁淀川だからこそ、かなしい思い出は作らないようにしています。

私たちは、色々な仁淀川体験を通して、仁淀川がたくさんの命を支えていることを学びました。これからもたくさんの命が生きていける川であってほしいので、川を汚さないよう自分のゴミは必ず持って帰ります。また周りにもゴミを持って帰ってもらうよう声をかけていきたいです。

これからやってみたいことは、屋形船から釣りをしたり、思いっきり泳いだりすることです。また、川原でバーベキューやキャンプをして星空を見たいです。そして仁淀川のことをもっと知るため、川のことに詳しい人に話を聞いたり、本やインターネットで調べて、仁淀川の魅力を知らない人に川の魅力を伝えていきたいです。いつまでもきれいな川であってほしいので清掃活動にも参加したいです。将来は自分を育ててくれた仁淀川に自分の子どもを連れてきていろいろなことを体験させてあげたいです。私たちの楽しみや夢を大きく広げてくれる仁淀川、私たちはこれからも仁淀川での色々な体験を楽しみ、自然の大切さ、人の命の尊さ、仲間との絆を心に刻んでいきたいと思います。



## 第2部「ワークショップ」

### ❖テーマ①「子どもたちを川へ呼び戻す」

**ブース1** 参加者数10名

NPO法人環境の杜こうち 兼松 方彦 理事長  
によど自然素材等活用研究会 井上 光夫 代表



- ・川の駅といった拠点作り(駐車場・トイレの整備)、川の楽しさだけでなく、危険も教える
- ・学校・教育委員会を巻き込んで、子どもに川に近寄ってもらう仕組みづくり
- ・プールで着衣水泳をした次に、実際に川へ行くというプログラムづくり
- ・水泳の方法・川の危険については、学校で基礎を教え、その後は地域ぐるみで支える
- ・仁淀川全体のイベント情報を共有する、イベントマップのような情報ツールを作る
- ・流域のイベントでは、川を楽しむとともに川の危険を教える企画を入れてもらうようお願いする
- ・「川の祭り」のような、大人と子どもが一日楽しく遊べる日があると良い

**ブース2** 参加者数8名

公益財団法人四万十川財団 神田 修 事務局長  
国土交通省四国地方整備局 高知河川国道事務所 北川 誠純 調査課長



#### 【理想の姿】

- ・子どもだけで川に遊びに行ける状態を作る

#### 【どんな行動をとっていくか】

- ・学校をサポートする体制づくり
- ・自分の子どもだけでなく、近所の子どもと一緒に川に連れていく
- ・大人がまず楽しんでいる姿を見せる

#### 【行動を起こすのに必要なもの】

- ・大人が川の知識を持つ、子どもが遊べるような地元の支援、川の楽しさ危険を教えてくれる先生を派遣する体制づくり
- ・保護者の意識改革。人任せでなく親として子どもに生きていく力を付けさせる
- ・ガキ大将養成講座を作る。昔は、ガキ大将が年少者の先生役だったが、今はそういったものが存在しない
- ・保護者のリーダーや楽しく遊んでいる地域の核となる人が必要

#### 【どんないいことが起きるか】

- ・子どもたちの感性が違ってきて、生きる力につながってくる
- ・子どもたちが川に行くようになると、大人の意識も変わってくる

#### 【そのために必要な人】

- ・保護者のリーダー
- ・ガキ大将
- ・川の知識のある人
- ・遊ぶ大人

## ❖テーマ②「美しい環境・景観を保全する」

### ブース3 参加者数11名

NPO法人環境の杜こうち **石川 貴洋** 事務局長

NPO法人仁淀川お宝探偵団 **生野 宜宏** 理事長



- ・どんなゴミが多いかを知るために、ゴミの内容の精査から始める必要がある(地元の人ゴミ、家庭ゴミ、観光ゴミ、洪水の時のゴミなどゴミの素性調査「知らないうちに加害者になっていないか」)
- ・川でどんなゴミが出ているかを定期的に知ってもらう機会を提供する(月に1度新聞へ写真の掲載など)
- ・清掃などの、環境保全活動はボランティアでやっているが、雇用につなげられる仕組みづくり
- ・仁淀川は、流域でつながっているのだから上流から下流の人がお互いを知ることができるような視点を持つ(下流の人は上流でどのように川を守っているのかを知る・上流の人は下流にどんなにゴミが溜まっているのかを知る)
- ・源流愛媛県とのタイアップがないと不完全である
- ・川の近くに、ゴミステーションを設置しては? →不法投棄対策や観光客等の散乱ゴミ防止対策など対象とするゴミの明確化や、流域各地域毎の現状の家庭ゴミの収集方法との調整が必要
- ・山主の立場から、自伐型林業を進める仕組みに関心を持つ
- ・ゴミだけに限定せず、山の様子も知ってもらう機会を提供したい

### ブース4 参加者数11名

仁淀川リバーキーパー **石川 妙子** 氏

国土交通省四国地方整備局 高知河川国道事務所 **渡辺 雄二** 仁淀川出張所長



- ・本流に出る前に支流でゴミの流出を食い止める
- ・昔は、川はゴミ捨て場であったので、その意識が抜けていない人もいる。デイサービスなどでゴミについて話をする
- ・下流にゴミを拾いに来ってもらう
- ・インパクトのあるゴミの写真をレジ袋やペットボトルに掲載することで、ゴミの実情を知ってもらう
- ・不法投棄のゴミを住民がボランティアで拾って持ってきた時に、自治体が積極的に受け入れてくれるような仕組みの住民からの働きかけ
- ・自然に分解しやすい素材での商品開発を企業に働き掛ける

## おわりに

それぞれのテーマごとに熱い議論を交わさせていただきました。

仁淀川は、約1/3が愛媛県に入っているので高知県だけでなく、愛媛県の方も巻き込んで仁淀川が一体となって取り組んでいく必要を感じました。

また今日のワークショップに参加して、上流下流のつなぎ役としての役目を仁淀川清流保全推進協議会が持っている、再認識いたしました。

本日の話をそれぞれがまた持ち帰って、「やってみよう」につなげていただければと思います。

仁淀川清流保全推進協議会 副会長 井上 光夫

### ❖シンポジウムに関するアンケート抜粋

- ・能津小学校の発表が良かった (20票)
- ・流域の取り組み紹介が良かった (6票)
- ・全て良かった (6票)
- ・質疑応答の時間がほしかった (2票)

## 当日の様子

